

高等部ソフトボール試合規定(2015)

原則

本規則に定める以外は、同年度の（公財）日本ソフトボール協会オフィシャルルールによる。

競技場及び用具等

1. 塁間距離 1 8 . 2 9 m、投球距離 1 2 . 1 9 m、ホームランライン 6 0 . 9 6 mとする。
2. ボールは、3号球を使用する。
3. バットは、ソフトボール用を使用する。
4. 金属製のスパイクは、使用禁止とする。
5. バッターおよびランナーは、両耳当てのあるヘルメットを着用する。
6. キャッチャーは、プロテクター、レガーズ、マスク、ヘルメット、スロートガードを着用する。

プレイヤー

7. ベンチに入ることができるのは、メンバー表に記載してある選手であり、他競技との併用出場は認めない。
8. 選手が9名に満たない場合は没収試合となり、0対7で相手チームの勝ちとする。試合途中で9人に満たなくなった場合も同様。ただし、両チームで合意の上、試合を行うことはできる。

試合

9. 試合開始5分前にメンバー表の交換を行い、コイントスによって先攻後攻を決める。
10. ベンチは、組み合わせ番号の若いチームを1塁側とする。
11. 1試合40分を経過した後は、新しいイニングに入らない。
12. 11で決まらない場合は、2アウト満塁（打順1番が3塁、2番が2塁、3番が1塁上において、打順4番が打席に立つ）から延長戦を1イニングだけ行う。
13. 12で決まらない場合は、くじ引き（5人）で勝者を決定する。
14. 1イニング5点に達したらチェンジとする。ただし、5点目を入れた打者の打点はすべて入れる。
15. コールドゲームは、なしとする。
16. 振り逃げ、盗塁は、なしとする。
17. 振ったバットを故意に投げる等の危険な行為をした場合、審判の判断においてアウトにすることがある。
18. ピッチャーの不正投球は、両足でプレートを踏むこと、軸足はプレートに残すことのみを採用する。
19. パスボールは、適用しない。
20. 円滑な試合進行のため、必要に応じて守備側のチームは主審の後ろに球拾いを1名出す。球拾いは、選手に指示をしてはならない。

審判・監督・コーチ

22. 監督・コーチは、ベンチ内及びコーチャーズボックス内での指示を行うことができる。
23. 審判は主審1名、塁審2名とする。
24. 審判への抗議は、監督のみ行うことができる。ただし、審判の判定には必ず従わなくてはならない。